

08 めぐみさんへの手紙 (北朝鮮による拉致問題)

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラがお届けします。

10 北朝鮮による日本人拉致問題が起こって44年。13歳の時に拉致された横田めぐみさんの父である滋さんが、令和2年に亡くなりました。解決に向けて活動していた拉致被害者の親世代が年々少なくなる中、産経新聞では「めぐみさんへの手紙」と題し、全国の小学生から大学生までが書いた手紙を連載しています。この2年間で500通を超える手紙が寄せられた中から、今日は中学2年生の手紙を一部抜粋して紹介します。

15 【中学2年生の男の子の声で】横田めぐみさん、元気でしょうか。自分が初めて拉致事件を知ったのは去年、中学一年生の時でした。横田めぐみさんは、同じ中学一年生の時に拉致されて、まだ夢や希望があったのがこの一日ですべて奪われてしまいました。今の自分だったら、死にたいと思うくらいの絶望だと思っています。

20 でも、横田めぐみさんは、日本に帰国できることを信じて、北朝鮮で苦しみながらも人一倍努力していると思います。僕は横田めぐみさんのおかげで気付けたことがいっぱいあ

25 ります。家に帰って「ただいま」と言えることのありがたさ、家族と一緒に笑い合えることのありがたさを教えてくださいました。

30 僕たち日本人は、横田めぐみさんが一瞬でも早く日本に帰国できることを心から祈っています。愛する家族に「ただいま」と言える日が来るのを待っています。

35 (ナレーター) いかがですか。寄せられた手紙の多くには、自分と同じ歳ごろの子が異国に連れ去られ、家族と離ればなれになったことへの衝撃が綴られています。紹介した手紙のほかにも、「出たくても出してくれない船の中で、めぐみさんがどれほどつらい思いをしたか。私はただただ、帰国を願うことしかできません」という声や、「こんなにもひどい事実を知らなかった自分が悔しい」、「大人になったら拉致問題解決のために協力したい」、「絶対あきらめないでください」など勇気づけられる声がありました。

40 横田めぐみさんたち、すべての拉致被害者にささげる手紙を通して、子どもたちの気持ちがつながり、救出を願う輪が広がっています。拉致問題という残酷な人権侵害の問題を、絶対に風化させてはいけません。